

4) 成人市中肺炎の重症度別患者数等

入院契機病名および最も医療資源を投入した傷病名に対するICD10コード（※1）がJ13～J18で始まるものに限定し、成人（20歳以上）の市中肺炎（※2）の患者さまについて重症度別に患者数、平均在院日数、平均年齢を集計したものです。

重症度は、成人市中肺炎（※3）診療ガイドライン（日本呼吸器学会）による重症度分類システム（A-DROP）（※2）により分類しています。

※1 ICD10（疾病および関連保健問題の国際統計分類：International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems）とは異なる国や地域から、異なる時点で集計された死亡や疾病のデータの体系的な記録、分析、解釈及び比較を行うため、世界保健機関憲章に基づき、世界保健機関（WHO）が作成した分類である。（引用元：厚生労働省HP 疾病、傷害及び死因の統計分類）

※2 市中肺炎とは、病院外で日常生活をしていた人に発症した肺炎です。肺結核、院内肺炎、日和見肺炎、閉塞性肺炎、嚥下性肺炎慢性下気道感染症の急性増悪などを十分に識別する必要があります。

※3 重症度分類システム（A-DROP）

- ① 男性70歳以上、女性75歳以上
- ② BUN以上21または脱水あり
- ③ SpO2（酸素飽和度）90%以下
- ④ 意識障害（肺炎に由来する）
- ⑤ 血圧（収縮期）90mmHg以下

上記5点満点で、1項目該当すれば1点、2項目該当すれば2点。

軽症＝0点の場合、中等度＝1～2点の場合、重度＝3点の場合、超重度＝4～5点の場合（ただし、ショックがあれば1項目のみでも超重度とする）、不明＝重症度分類の各因子が1つでも不明な場合。

	患者数	平均在院日数	平均年齢
軽度	-	-	-
中等度	32	23.50	87.25
重度	-	-	-
超重度	-	-	-
不明	-	-	-